

社員が幸せで、
誇りを持てる
場でありたい



株式会社八重樫建設
代表取締役社長
八重樫 學

対談

株式会社サツシュ
代表取締役
柳沢 正志

01

社員のために、
会社は何を目指すべきか

八重樫建設株式会社

道路、橋、河川工事などを手がける総合建設業。鹿角の老舗企業で、2016年に創業100年を迎えた。質の高い仕事には定評があり、優良工事表彰を何度も受賞している。

株式会社サツシュ

スカート、パンツなどのボトムを生産している縫製工場。技術の高さが評価され、BEAMS、コムデギャルソン、THEORY など、有名アパレルブランドの商品を製造している。

「なんだか面白い」
そんな会社にした

八重樫 ● サツシュさんは有名なアパレルブランドの商品をたくさん作っていらっしやうって、鹿角から全国各地へ、どんどん進出していますね。

柳沢 ● こんでもないです。八重樫建設さんは私が子どもの頃からある会社ですから、本当にすごい。鹿角で長く愛されていますよね。八重樫さん



1 サツシュは「使い捨てにしない」をモットーに、長く着続けられる服を製造しています。
2 ジャズを愛する八重樫さん。自宅のスタジオで収録したラジオ番組を聞かせてくれました。

は地元のラジオ局で音楽番組を持っていて、ユニークな方だなあという印象です。

八重樫 ● まさに、そうなんです。「面白い会社」にすることが私の役目だと思っています。実務については、私よりも管理職たちの方が現場をよく知っています。じゃあ社長は何をするのかといえは、「この会社にいる意味」をやることではないかと。建設会社は世の中にたくさんありますが、その中で八重樫建設にしかない面白みを作りたい。他社に先駆けて太陽光エネルギー事業を始めたのも、その想いがあったからです。音楽番組は、私の趣味も兼ねていますが（笑）

柳沢 ● 素晴らしいですね。会社は、社員が「ここで働きたい」と思える魅力を持つていなくてはいけませんから、身が引き締まる思いです。私は、サツシュを洋服好きな人が集まってくる場にしたのです。「どうしたらもっと良いモノができるのか」「こんなアイデアはどうか」：そんなことを、時間を忘れて皆で話し合えるような。

八重樫 ● サツシュさんで働きたいと、県外からも入社希望の方がやって来ると聞きました。モノづくりは欠かせないクリエイティブなアイデアは、自然に囲まれたこういう場所

でこそ湧き出てくるものなのかもしれないですね。

柳沢 ● 移り住んできた社員が、雄大な自然に「豊かさ」を感じると話していました。私は鹿角出身なのですが、改めて地元の良さを教えられています。

八重樫 ● 山も川も温泉もあって、ユネスコ無形文化遺産に登録された「花輪祭の屋台行事」もあって、素晴らしい場所ですよ。私は新潟出身なので、こちらに来て鹿角の人は故郷を愛する気持ちがとても強いと思いました。だから県外から訪れる人に、どんな良いところを教えてくださいませね。

自分の夢のために
会社を活用して

柳沢 ● 私は社員に、「会社を利用してかまわない」と伝えていきます。個人では難しいことでも、会社ならできるといふことはたくさんありますよね。例えば自分のアイデアが商品として成り立つのかを試してみたり、東京へ研修行って感性を磨いたり。なかなか希望を口に出せないという人も多いと思うのですが、遠慮せずにどんどん発信して、会社を使って夢を叶えてほしいです。

八重樫 ● ああ、社員には夢を

持ってほしいですね。若手社員には、「一番」を目指してほしいと思ってるんです。仕事でも趣味でもいいし、町内会の一番でもかまわないので、何か一つ自慢できるものを持つてほしいと。ただ、一度「一番」になったら、もっと上を目指したくなるものです。そのうちに、世界で一番になりたくなるかもしれない。自分の可能性を甘く見ず、どんどん上を目指してほしいですね。その過程で失敗するのは当たり前。責めることはありませんよ。

柳沢 ● そうですね。利益あつてのことですが、サツシュは社員のやりたいことを実現できる場でありたいと思っています。いろいろな人にお世話になって、さまざまな経験をさせていただいて、今の私があります。ですから今度は、その恩を社員に返す番です。独立したいという社員がいれば、その環境を整えてあげられるような会社にしたいですね。

八重樫 ● 私も、会社を大きくすることにはこだわっていません。どんどん大きくなっていく会社があれば、小ぢんまりしている会社があってもいいでしょう。鹿角の企業として、これからも地域に寄り添っていきたいですね。そして何より、働く人が誇りを持っていて、幸せでいられる会社でありたいです。



対談にご登場いただいた全20社のドキュメンタリー映像を公開しています。